

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 7月 31日

【評価実施概要】

事業所番号	0170503312		
法人名	医療法人社団 弘恵会		
事業所名	グループホーム 生きがい2		
所在地	札幌市白石区北郷2条4丁目6番12号 (電 話) 011-874-2014		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年7月29日	評価確定日	平成21年8月10日

【情報提供票より】 (平成21年7月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 17年 6月 21日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 16人, 非常勤 1人, 常勤換算 15.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	5 階建ての 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費: 22,000円 暖房費: (11-3月) 10,000円
敷 金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4) 利用者の概要 (7月 18日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名
要介護3	4 名	要介護4	5 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.4 歳	最低 67 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	整形外科内科沢口医院 工藤歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR駅より徒歩5分と交通の便が良い場所にあり、1、2階が同一法人が経営する病院、3階がグループホームとなっている。近くに生協、商店街、銀行、公園などがあり生活に便利である。2ユニットが1フロアにあり、ユニットごとの行き来がしやすい。室内は明るく、段差もなくバリアフリーが行き届いている。職員は温厚で人間関係も良く利用者はゆったりとした生活を送ることができている。建物が同じため、院長が毎日巡回してくれるなど医療支援体制が充実しており、利用者や家族の安心につながっている。また音楽療法や訪問リハビリにも力を入れている。食事は利用者の好みや食べやすさ、彩りなど楽しめる工夫がなされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年の外部評価の「取り組みを期待したい項目」についてはある程度意識しているが、ホーム長の交代もあり継続的な取り組みとはなっていないので、外部評価結果に対する継続的・具体的な改善への取り組みを期待する。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はホーム長と管理者などが中心に作成し職員にも意見を求めているが、職員が作成に参加したり積極的に意見交換をするまでは至っていないので、職員の自己評価に対する理解を深め、作成にも参加できるような体制づくりを期待する。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は地域包括センターや住民代表などが参加して開催されているが、今年の3月以降は1回の開催にとどまっている。会議レジュメや会議録の作成も整理している段階であるので、今後はホームの重要テーマについて意見交換を行い、2カ月に1回程度の開催、その結果を記録し運営に反映できるような取り組みを期待する。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム便りを3ヶ月に1回程度作成、送付しているほか、個別の手紙を毎月家族に送付している。受診や金銭の報告も適切に行なっている。また、面会時や運営推進会議で家族の意見を聞き即対応している。玄関横に意見箱を設置しているほか、重要事項説明書に外部の苦情受付機関について明示している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区センターで開催される行事に参加したり、地元の中学生在が体験学習に来たりしている。町内会行事等への参加や地域住民との交流はまだ拡大の余地があるので、今後はホームとして町内会役員会に参加してホームや認知症の理解を深めてもらい、さらに交流が活発となるよう積極的な取り組みに期待する。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の生活歴などを踏まえた愛情と配慮のある関わりや生活機能の維持向上をめざすという内容のホーム独自の理念が作られているが、地域密着や地域社会とのかかわりに関する文言は記されていない。	○	理念や方針の中で地域密着や地域との交流について掲げ、取り組みをさらに意識していくことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホールやスタッフスペースの見やすい部分に掲示されている。職員は理念の要約したものを覚え、掲示された理念を見ながら業務にあたっている。申し送り時やミーティングでも理念を確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区センターで開催される行事に参加したり、地元の中学生在が体験学習に來たりしている。町内会行事等への参加や地域住民との交流はまだ拡大の余地がある。	○	今後はホームとして町内会役員会に参加してホームや認知症の理解を深めてもらい、さらに交流が活発となるよう積極的な取り組みに期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はホーム長と管理者が中心に作成し職員にも意見を求めているが、職員が作成に参加したり積極的に意見交換をするまでは至っていない。昨年の外部評価の「取り組みを期待したい項目」についてはある程度意識しているが、ホーム長の交代もあり継続的な取り組みとはなっていない。	○	職員の自己評価に対する理解を深め、作成にも参加できるような体制作りと、外部評価結果に対する継続的・具体的な改善への取り組みを期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域包括センターや住民代表などが参加して開催されているが、今年の3月以降は1回の開催にとどまっている。会議レジュメや会議録の作成も整理している段階である。	○	運営推進会議は2カ月に1回程度開催できることが望ましい。開催に当たってはホームの重要テーマについて意見交換がなされ、その結果をしっかりと記録し運営に反映できるような取り組みを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括センターが運営推進会議に参加するほか、ホーム長が区の管理者会議にて情報交換を行っている。また法人の担当者が市の担当者と直接情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを3ヶ月に1回程度作成、送付しているほか、個別の手紙を毎月家族に送付している。受診や金銭の報告も適切に行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議で家族の意見を聞き即対応している。玄関横に意見箱を設置しているほか、重要事項説明書に外部の苦情受付機関について明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は極力しないようにしている。職員の離職の際は利用者のダメージが少なくなるよう工夫している。過去にダメージが発生したケースはない。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は順次外部研修を受講しているが、内部研修やホーム内の勉強会の開催は少なく、会議等での外部研修報告や情報の共有化についても十分とはいえない。	○	外部研修の報告会の実施や、同一法人の老人保健施設等との勉強会の充実などを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の管理者会議を通じて管理者レベルでは他のグループホームとの交流ができているが、職員レベルでは勉強会や相互訪問等の活動までは至っていない。	○	職員レベルでも他のホームの職員と交流が図れるよう、今後企画される区内の職員交流の場に参加したり、別地域のホームでも交流機会が得られれば積極的に交流し、サービスの向上に活かされることを期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	原則として入居前に本人が見学に来て納得したうえで入居している。本人が来られない場合は職員が本人を訪問し、馴染みの関係を築くようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者一人ひとりの尊厳を尊重し、日常の対等な立場を心がけている。会話の中で昔話を引き出し、教えてもらう場面を作っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での思いや希望は表情などから把握している。入居時に利用者の情報シートを作成しているが、生活歴やその後の情報の蓄積は十分とはいえない。	○	利用者のアセスメントシート早い段階で作成し、介護の中で得られた情報を蓄積し改訂していくなどの取り組みを期待する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の思いや意見を踏まえ、介護支援専門員と管理者が中心となり介護計画を作成している。作成時に職員全員が参加する会議は開催できておらず、その他の職員の意見が反映できる仕組みは十分とはいえない。	○	職員全員参加の会議開催が望ましいが、カンファレンスに職員全員が参加できなくても申し送り時や書類等で意見を集約したうえで、介護計画を作成できるような体制づくりを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとに見直しが行なわれ、病状の変化などがあれば本人や家族と相談し、状況に応じた都度の見直しも実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	建物の1, 2階が病院であり、医療支援を受けやすい状態となっている。また訪問の理美容も利用している。音楽療法士の訪問を受けたり、リハビリの通所支援も行なっている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	建物の1, 2階が同一法人の病院であり、院長が毎日巡回し利用者の健康状態をチェックしている。利用者個別のかかりつけ医への通院支援も介護タクシーを利用して行なっている。また特別な変化があった際には受診結果を家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については、ホームでできる限り支援する方針とし、入居時の早い段階から本人や家族、職員とも方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人ファイルの記入は離れた位置で行い、記録の保管も安全な場所で管理している。利用者の誇りやプライバシーを尊重し、普段の言葉かけや排泄時の対応にも注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの都合を優先することなく利用者の体調や希望、ペースに合わせた生活支援を行なっている。就寝や起床、テレビの視聴なども本人のペースに合わせている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者と一緒に会話しながら食事を摂っている。食事の準備、下膳、食器拭きなどは利用者の状況や身体能力に応じて協力を得ている。利用者が個々に食べやすいよう配慮して調理している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	行事を企画することが多い水曜日以外は毎日入浴することができ、各利用者は週2回程度の入浴ができています。入浴をしたがらない場合も上手に浴室前まで誘導し入浴を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の盛り付け、下膳、食器拭き、洗濯物たたみなど個々の能力に応じて役割を担ってもらっている。体操や歌、編み物、習字など趣味の活動も行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	半数ぐらいの利用者は能力に応じて散歩や買い物で外出できている。地区センターの行事に参加したり、介護タクシーを利用して花見などの外出行事を実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は理解しているが、安全上ユニットからエレベータへのドアは鍵がかけられており、事務室の遠隔操作で開けている。1階の玄関は防犯、安全上の理由で施錠しているが、内側から開けることはできる。	○	利用者の心理的圧迫感を配慮して、エレベータまでのドアは鈴やセンサーなどを活用したり利用者の状況を把握するなどして開けておくか、内側から開けることができるよう検討することを期待する。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施しているが、夜間を想定した避難訓練は未実施である。地域の人々への協力依頼や職員の救急救命訓練の受講は十分とはいえない。	○	夜間想定避難訓練の実施や運営推進会議を活用した地域住民への災害時の協力の呼びかけ、職員の救急救命訓練の定期的参加などの取り組みを期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は委託業者の栄養士が作成したものを基にアレンジしており、カロリーや栄養バランスなどが把握できている。記録用紙に食事や水分の摂取量を記録し、摂取が少ない場合は好みのものを提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が広く、明るさ、温度、湿度も配慮がなされている。畳敷きで小上がりの空間もあり開放的でゆったりとした雰囲気となっている。手作りの日めくりカレンダーや装飾が施され、居心地よく過ごせる工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、各利用者の馴染みの家具や生活用品が自由に持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。部屋の壁も利用者が自由に使用している。		

※ ☐ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。